科目基础		等專門学校	│ 開講年度 │令和06年度 (2	2024年度) 1	受業科目	知的財産権		
	逆情報	17		/				
科目番号		0046		科目区分	専門 / 必修	3		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位:			
開設学科		機械電気コ		対象学年	3	_		
		後期		週時間数	2			
教科書/教	 女材	配布資料		1. = -11.	- I			
<u> 担当教員</u>		阿部 忠人,	橋爪 善光					
到達目標		11 321 133 17						
課題の把持	握と解決能 れば作成で	力を身につける きるようになる	るとともに、知的財産権に関する基礎 ることを目標とする。	的な知識を習得して知的	対産権の取得	导に必要な出願書類について簡単な		
ルーブ!	リック					1		
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの		未到達レベルの目安		
評価項目:	1		知的財産権に関する深い考察が出 来る	知的財産権に関する基 説明できる	本的事項を	知的財産権に関する基本的事項を 説明できない		
評価項目2	2		知的財産の権利化にあたり、適切な対応をとることができる。	知的財産の権利化に必 理解することが出来る	要な要件を	発明の創出に必要な知的創造手法 について全く実践することが出来 ない		
評価項目:	3		自らのアイデアについて発表したり、他人へ説明したりする際に、 聴衆の疑問に対して適切に回答することが出来る	自らのアイデアについ り、他人へ説明したり 出来る		自らのアイデアについて説明する ことが出来ない		
学科の3	到達目標了	項目との関係	交 术					
到達目標								
教育方法	 法等							
概要	<u> </u>	現代社会	⇒において益々重要度を増している知ける はする拒絶理由通知への対応の仕方やは	的財産権の創出と保護、 権利の抵触に関する判断		D基礎について学習する。また、特 Nて実践的に学ぶ。		
授業の進	め方・方法	毎回、講 Teamsの	講義と演習を行いながら学習を進めることを基本とする。また、講義内容について不明な点があれば、随時、 デャットで質問してもらうなどして、コミュニケーションをとりながら学習を進める。さらに、創造演習におで考えた発明の内容をブラシュアップして、特許出願のための書類を作成する。					
注意点			O点数を30%、2回のレポートの点					
授業のほ	量性・履ん	修上の区分						
	<u> 3 エー/ 交 </u> -ィブラー		□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業		
<u>w , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,</u>	1122 _					図 大切性状ののも教育にある技术		
授業計画								
<u> </u>	쁴							
	i	la la	5.44¢ 1	J.mv				
		週 担	受業内容		この到達目標			
			受業内容 発明と特許	発明の件と	D定義を知る その考え方に			
		1週 🦠		発明4件と3 日常ら、9 徴を5	D定義を知る その考え方に D生活に関係 II的財産権全 が。	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが 般について、権利の種類、内容、特		
		1週 第	発明と特許	発明な代とる	D定義を知る その考え方に D生活に関係 II的財産権全 が。 D構成と、発	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが 般について、権利の種類、内容、特 明の作用や効果との違いを理解する		
	3rdQ	1週 第 2週 第 3週 9	発明と特許 知的財産権について	発明な代とる 日常な (大き) (大き) (大き) (大き) (大き) (大き) (大き) (大き)	D定義を知る その考え方に D生活に関係 I的財産権全 が、 D構成と、発 を権利化する たについて学	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが 般について、権利の種類、内容、特 明の作用や効果との違いを理解する 上で、最も重要な特許請求の範囲の ぶ。		
		1週 第 2週 第 3週 第 4週 #	発明と特許 知的財産権について 発明の構成	発明な	D定義を知る その考え方に D生活に関係 同的財産権全 がぶ。 D構成と、発 を権利化する 方について学 D発明を特徴	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが 般について、権利の種類、内容、特 明の作用や効果との違いを理解する 上で、最も重要な特許請求の範囲の ぶ。		
		1週 第 2週 第 3週 第 4週 #	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 寺許請求の範囲	発明な代とる 日常な	D定義を知る その考え方に D生活に関係 ID的財産権 が、。 D構成と、発 を権利化て多 D発明を特記 D発明を特記 Dを持ついて等 Dを持ついて等 Dを対しても Dを対しても Dを対しても Dを対しても Dを対しても Dを対しても Dを対しても Dを対しても Dを対しても Dを対しても Dを対しても Dを表しても Dest Dest Dest Dest Dest Dest Dest Dest	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが 般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する 上で、最も重要な特許請求の範囲の ぶ。		
		1週 9 2週 9 3週 9 4週 4 5週 9	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 寺許請求の範囲 た行技術調査	発明な 代件と当日 日常な 一日に、を 一 発明な 一 発明な 一 発明な 付付与し 方法な 外国	D定義を知る で考え方に D生活に関係 ID的財産権 IDも IDは IDは IDは IDは IDは IDは IDは IDは	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する		
後期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 寺許請求の範囲 た行技術調査	発明な 代件と 日常な 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	D定義を知る その考え方に D生活に関係 I的財産権全 が。 D構成と、発 性和化いて学の発力を持つ ででは、 D発明を報記号 で学ぶ。 で特許権を取 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、 で、	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する		
後期		1週	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 寺許請求の範囲 た行技術調査 小国出願 寺許と実用新案	発明な 代件と 日常な 一 日に、を 発明な 。 発書さ 自分な 付方法を 外国で 知り 特許の 知り	D定義を知る その考え方に D生活に関係 D性活に権全 が。 D構成と、発 E権可いて等記 D発分が。 で特許権を取った等 対策を取った できま用新案の 対権に関す	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する得する方法について学ぶ。 退いについて学ぶ。 る基本的事項の確認 いて拒絶理由通知を受けた場合の対		
後期		1週	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 寺許請求の範囲 た行技術調査 外国出願 寺許と実用新案 中間試験	発明な 代件と 日常な 一日に 一日に 一日に 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般 一般	の定義を知ることの考えた。 で考えた関係全対のには の生活に産権を対する。 の構成と、はする。 の構成と、はする。 の構成といまでは、発いまでは、発います。 のでは、発います。 では、発います。 では、発います。 では、発います。 では、発います。 では、発います。 では、発います。 では、発います。 では、発います。 では、発います。 では、発います。 では、発います。 では、まず、では	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する得する方法について学ぶ。 遠いについて学ぶ。 る基本的事項の確認 いて拒絶理由通知を受けた場合の対学ぶ。 する手続き補正書と意見書を作成し		
後期		1週	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 寺許請求の範囲 た行技術調査 外国出願 寺許と実用新案 中間試験 巨絶理由通知への対応(基礎)	発明と	の定義を知るに を考えた関係全 の生活に産権 の性がある。 の性がある。 の性がある。 の性がある。 の性がある。 の性がある。 の性がある。 の性がある。 の性がある。 のは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する得する方法について学ぶ。 違いについて学ぶ。 る基本的事項の確認いて拒絶理由通知を受けた場合の対学ぶ。 する手続き補正書と意見書を作成しート1)。 する基本的な理論を知り、抵触の判		
後期		1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 寺許請求の範囲 た行技術調査 外国出願 寺許と実用新案 中間試験 巨絶理由通知への対応(基礎) E絶理由通知への対応(演習)	発明と 発明 と 日	を	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する得する方法について学ぶ。 違いについて学ぶ。 る基本的事項の確認いて拒絶理由通知を受けた場合の対学ぶ。 する手続き補正書と意見書を作成しート1)。 する基本的な理論を知り、抵触の判		
後期	3rdQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 4	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 寺許請求の範囲 た行技術調査 外国出願 寺許と実用新案 中間試験 巨絶理由通知への対応(基礎) 巨絶理由通知への対応(演習) 寺許権の抵触(基礎)	発件と同じ、	を	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する得する方法について学ぶ。 違いについて学ぶ。 る基本的事項の確認いて拒絶理由通知を受けた場合の対学ぶ。 する手続き補正書と意見書を作成しート1)。 する基本的な理論を知り、抵触の判究める。 する課題を提出する(レポート 記載方法を学ぶ(自分の発明を文書		
後期	3rdQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	発明と特許 の的財産権について 発明の構成 等許請求の範囲 た行技術調査 ・ 小国出願 等許と実用新案 中間試験 巨絶理由通知への対応(基礎) 巨絶理由通知への対応(演習) 等許権の抵触(基礎) 等許権の抵触(基礎)	発件であった。 発書 自付方 外 特 知 特応 経 特 所 の 経 提 計 に 許 に 計 で 自 か で 自 か で 自 か で 自 か で 自 か で また か に か に か に か に か に か に か に か に か に か	を	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する得する方法について学ぶ。 違いについて学ぶ。 る基本的事項の確認いて拒絶理由通知を受けた場合の対学ぶ。 する手続き補正書と意見書を作成しート1)。 する基本的な理論を知り、抵触の判究める。 する課題を提出する(レポート記載方法を学ぶ(自分の発明を文書として、特許請求の範囲について具		
後期	3rdQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	発明と特許 の的財産権について 発明の構成 等許請求の範囲 た行技術調査 外国出願 等許と実用新案 中間試験 巨絶理由通知への対応(基礎) 巨絶理由通知への対応(演習) 等許権の抵触(基礎) 等許権の抵触(漢習)	発件と常々を 発書 の	を	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する得する方法について学ぶ。 違いについて学ぶ。 る基本的事項の確認いて拒絶理由通知を受けた場合の対学ぶ。 する手続き補正書と意見書を作成しート1)。 する基本的な理論を知り、抵触の判究める。 する課題を提出する(レポート記載方法を学ぶ(自分の発明を文書として、特許請求の範囲について具		
後期	3rdQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 # 11週 12週 13週 14週 15週	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 寺許請求の範囲 た行技術調査 外国出願 寺許と実用新案 中間試験 巨絶理由通知への対応(基礎) 巨絶理由通知への対応(演習) 寺許権の抵触(基礎) 寺許権の抵触(遠望) 出願書類の書き方(1)	発件と常々を	を	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する得する方法について学ぶ。 遠いについて学ぶ。 遠いについて学ぶ。 る基本的事項の確認いて拒絶理由通知を受けた場合の対学ぶ。 する手続き補正書と意見書を作成しート1)。 する基本的な理論を知り、抵触の判案める。 する課題を提出する(レポート記載方法を学ぶ(自分の発明を文書として、特許請求の範囲について具学ぶ。		
	3rdQ 4thQ	1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 # 11週 12週 13週 14週 15週 16週	発明と特許 知的財産権について 発明の構成 詩許請求の範囲 た行技術調査 小国出願 詩許と実用新案 中間試験 巨絶理由通知への対応(基礎) 巨絶理由通知への対応(演習) 詩許権の抵触(基礎) 詩許権の抵触(遠習) 出願書類の書き方(1) 出願書類の書き方(2)	発件と常々を	のでは、 これで、 これで、 これで、 これで、 これで、 これで、 これで、 にないで、 に	ついて学ぶ。 する身近な知的財産権を例にしなが般について、権利の種類、内容、特明の作用や効果との違いを理解する上で、最も重要な特許請求の範囲のぶ。 付けるキーワードや特許庁が独自にを用いて先行技術の有無を調査する得する方法について学ぶ。 遠いについて学ぶ。 遠いについて学ぶ。 る基本的事項の確認いて拒絶理由通知を受けた場合の対学ぶ。 する手続き補正書と意見書を作成しート1)。 する基本的な理論を知り、抵触の判案める。 する課題を提出する(レポート記載方法を学ぶ(自分の発明を文書として、特許請求の範囲について具学ぶ。		

基礎的能力	工学基礎				知的財産の社会的意 本的な事項を説明で	意義や重要性の観点から、 ごきる。	知的財産に関する基	3				
		技術者倫理 (知的財産、 法令順守、	技術者倫(知的財産)法令順守	建、	知的財産の獲得など ついて説明できる。	ごで必要な新規アイデアを	を生み出す技法などに 3	3				
		法予順寸、 持続可能性 を含む)およ び技術史	法で限す、 持続可能性 を含む)お。		技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。			3				
		び技術史	び技術生		技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。			3				
評価割合												
		中間試験		レポート1又は2		特許出願書類	演習プリント等平常点	(合計				
総合評価割合		30		15		25	30	100				
基礎的能力		30 0		0		0	0	30				
専門的能力		0 0		0		0	30	30				
分野横断的能力		0 1		15		25	0	40				